

件名	有形文化財の指定について
提案理由等	<p>栃木県文化財保護審議会から指定が適である旨の答申のあった文化財について、栃木県指定有形文化財に指定するものである。</p>

有形文化財の指定について

平成29年3月8日付けをもって、栃木県文化財保護審議会から指定が適である旨の答申のあった下記の文化財について、栃木県文化財保護条例（昭和38年栃木県条例第20号）第4条第1項の規定により、栃木県指定有形文化財に指定する。

記

名称及び員数	黒馬繫馬図絵馬 1点
種別	有形文化財（絵画）
所在地	下都賀郡野木町野木2404
所有者	野木神社

平成29年3月16日

栃木県教育委員会

平成 29 年 3 月 8 日

栃木県教育委員会 様

栃木県文化財保護審議会

有形文化財の指定について（答申）

平成 28 年 7 月 5 日をもって諮問を受けた有形文化財の指定の適否について、当審議会は慎重に審議した結果、下記のとおり答申します。

記

名称及び員数	黒馬繫馬図絵馬 1 点
種 別	有形文化財（絵画）
所 在 地	下都賀郡野木町野木 2404
所 有 者	下都賀郡野木町野木 2404 野木神社
指定の適否	適（理由は別紙調書参照）

調 書	
種 別	有形文化財（絵画）
名 称 及 び 員 数	黒馬繫馬図絵馬 1点
所 在 の 場 所	栃木県下都賀郡野木町野木 2404
所有者の氏名又は名称 及 び 住 所	野木神社 栃木県下都賀郡野木町野木 2404
寸 法 及 び 形 式 等	総高 136.9 cm 総幅 182.7 cm 画面 縦 118.0 cm（最長） 横 163.8 cm 木製金地著色
年 代 又 は 時 代	江戸時代 文政 12 年（1829）
指 定 の 適 否	(適) 不適
現 況 及 び 所 見	
<p>江戸時代後期、18世紀末から19世紀前半にかけて主として江戸で活躍した谷文晁（1763～1840）による繫馬図の絵馬である。堂々とした体の黒馬は繫ぐ縄を強くひっぱり、左足を挙げてポーズをとる。室町末期以来、狩野家絵師による大型の繫馬図の伝統があるが、江戸後期においては、漢画に画風のベースを置き、宋元の古典的な唐絵、明清の文人画、西欧渡来の洋風画、やまと絵などあらゆる画風に通じた人気作家の谷文晁がその豪快な様式の継承者となった。本作と同じく金箔地で、よく似たポーズをとる谷文晁筆「白馬繫馬図絵馬」が東京浅草の浅草寺に残されており、好対照をなしている。</p> <p>古河藩主土井家は野木神社とゆかりが深く、谷文晁およびその一門とも交流が密接であった。文晁の弟子の渡辺崋山（1793～1841）による古河藩の家老、「鷹見泉石像」（東京国立博物館蔵）をはじめ、『鷹見泉石日記』に頻繁に文晁や門人の名が出てくることなどもそのよき例証となる。</p> <p>絵馬の裏側には、薄くなっているが「奉献」の横書きの墨書、「谷文晁」と「田部井弥助」の併記、その左に「文政十二年歳次」「己丑秋九月」の年紀が二行に書かれている。右側にある「野木神社所有」の墨書は墨色が異なり、のちに書かれたものと判断される。奉納者の田部井弥助は古河城下の石町で雑穀商を営んでいた豪商、駿河屋の主人である。以上の記録などからみて、本絵馬は谷文晁と古河藩との縁故により、地元の有力者の経済力を背景として制作されたものと判断される。</p> <p>黒馬は、木地に直接、墨で描き、太い墨線で象る。たてがみや尾や足毛は墨線に金泥線を重ねて力強く描き、馬具の轡や差し縄などに金泥や赤、青、白などの彩色がほどこされているが、蹄などは剥落が進んでいる。</p> <p>左下の金箔地の上に「文晁筆」の墨書と「文晁畫印」の朱文方印がある。馬にくらべて署名・印章が薄くなっているのが気になるが、金箔地にしるされているので保存状態に差異が出たものと判断される。絵馬の形式、絵画の様式や署名・印章などから総合的に判断して、裏面の年紀通り、文政12年の制作とみてほぼ誤りないだろう。</p>	

本作品は江戸後期の代表的絵師である谷文晁の絵馬として、また当時の古河の文化活動を伝える貴重な作品として、栃木県の文化財に指定することは十分に妥当であると認められる。

【参考文献】

『写山楼 谷文晁』(栃木県立美術館、1979年)

河野元昭編『日本の美術 257 谷文晁』(至文堂、1987年)

藤懸静也「維新前の古河の豪商」『北総之実業』第36号 (古河実業協会、1911年1月1日)

『古河市史 民俗編』(古河市史編さん委員会／編、1983年)

『古河市史 資料近世編 (町方地方)』(古河市史編さん委員会／編、1982年)

調 査 年 月 日	平成 28 年 9 月 30 日
調 査 委 員 名	新井敦史 玉蟲敏子

黒馬繫馬図絵馬（野木町 野木神社所有）



【参考】「浅草寺絵馬・扁額群」のうち「神馬」（谷文晁筆）







